



# 教皇様の叢

Libreria Editrice Vaticana, Città del Vaticanoの転載許可済  
 © 1993 発行所  
 財団法人 精道教育促進協会  
 〒659 兵庫県芦屋市船戸町12-6  
 TEL.0797-31-3452・FAX.0797-31-3448

## 子供たちへ

### イエズスの親友に

(…)「親友」：そうです。皆さん、本当にイエズスは神様が子供たちにお与えになった最高の友達なのです。イエズスは自分の命を私たちにくださったお兄さんです。私たちが友と呼んでください。私たちが友と呼んでください。皆さんもイエズスの友ですが、特別な意味で、子供たちこそ親友です。「子供が：私のところに来るのを止めるな。天の国を受けるのはこのような者たちである。」(マテオ19・14)そればかりではありません。「こういう子供を受け入れる者は私を受け入れる」(同18・5)とも言われました。ですから子供たちには、ぜひともイエズスを友達と考えてほしいのです。友とはどういうことかを、イエズス自身こう言っておられます。「私の命じることを守れば私の友人である。」(ヨハネ15・

14) イエズスの言葉に耳を傾け、実行するならば、私たちはイエズスの友です。子供たちよ、イエズスの言葉はいつも新しく、また全てのものを新しくします。(黙示録21・5参照) 神の言葉を知るのはキリスト信者の第一の務めであり、それにはまず、要理の勉強が肝心です。(…)要理の勉強こそが子供たちの、特に皆さんの大切な義務であることを考えていただきたいと思えます。しかし、皆さんは神の言葉を宣言し、証明する人でもなければなりません。皆さんが福音の「新しい言葉」を、家でも、学校でも、教区でも、とりわけ皆さんのお友達の間でも、どこでも広めていることを教皇はうれしく思います。子供の皆さんにとっても、「新たな福音宣教」は重大な、またすば

らしい仕事であり、イエズスがなさったように言葉と模範で果していかねばなりません。皆さんの決心について聞きました。飢えや戦争のために苦しむ子供たち、見捨てられ、あらゆる種類の暴力にさらされて泣く子供たちのことを考えようとする広い心の皆さんを、祝福したいと思います。そう、何と多くの皆さんのような子供たちが、涙でクリスマスを迎えていることでしょうか！あちらこちらで、何と多くの子供たちが人間の精神的、物質的なみじめさの犠牲になっっていることでしょうか！皆さん、あなたたちの小さな心の中には世界中の子供たち、とりわけ最も貧しい子供たちのいる場所があるはずなのです。少し先の世界平和の日に寄せたメッセージで私は次のように書きました。皆さんも聞いてください。「節制と質素とを日々の生活の基準にするべきです。」(5番) 必需品にも事欠く大勢の子供たちの必要を満たすためには、これが一番現実性のある方法です。兄弟姉妹たちを助けるため、

「教皇様の声」  
 年間購読者  
 募集中！

ヨハネ・パウロ二世教皇の説教・書簡・講話などを解説なしにそのままわかり易い日本語に訳して伝える月刊紙。この機会にぜひご一読下さい。

- ★年間購読1部900円+送料600円
- ★教会当て2部以上お送りする場合は送料無料。
- ★お申し込み・お問い合わせは精道教育促進協会まで。

〒659 兵庫県芦屋市船戸町12-6  
 Fax&Tel 0797-31-3452  
 郵便振替 神戸 3-72393

## 聖母信心は キリストをたたえる



至聖なるマリア、聖ヨセフと共に、託身されたみことばのすばらしい秘義を思い巡らせましょう。

神の子が「女から生まれ」(ガラツィア4・4参照)たことを考えると、永遠の救いの計画を思わずにいられません。至高の御方

は、御独り子を私たちの救い主・贖い主としてお与えになりました。

このクリスマス、すなわち愛の摂理による「秘義」は、エンマヌエル(神と共に)の処女なる母として選ばれたマリアを贖いのわざと結び付けています。しばし降誕の場面でのマ

自発的に何かを、特にいらぬもの、害になるようなものは無しですませるのです。イエズスは私たちに全てを与えるため、何もかも投げ出しました。そうすれば、愛し、友情を示し、平和を打ち立てることになります。聖マリア、イエズスの御母、皆さんの「親友」の母である方が、これら全てのことを教え、実行に移すことができます。よう助けてください。そして先生方、あなたたちも行いをもってキリストに忠実に生き

ること、信心深い処女を模範とすることを存じます。こうして若い世代をキリスト教信者としてうまく育てて行くことができます。ナザレトの聖家族に目を向けて、あなたたちを永遠に結びつけている秘跡の恩寵を新たにしてください。秘跡の恩寵の中にこそ、親としての霊的な使命の鍵があります。皆さん方全員に、よいクリスマスと平和な新年を祈ります。

(一九九二・一二・二二)

リアを黙想してみましよう。イエズスを腕に抱いた御母はまず最初に、神の光に照らされたあの洞窟から聞こえてくる真理のメッセージを私たちが理解できるよう、助けてください。神が人となられ、私たちの本性を共有し、救いをもたらす愛の力をもつて語りかけてられると。とは言え、私たちに救いの「みことば」をもたらしたのはマリアです。

「正義の太陽」イエズス、人生に真の意義を与え、存在の持つありとあらゆる意味を教えるイエズスを、私たちに与えてくださったのです。このような秘義を前にして、驚嘆の思いに満たされずにいられましようか。私たちのところに来られる歴史の主を心からお迎えせずにいられましようか。

マリアを慕い、お集まりになった若者の皆さん。クリスマススの秘義の場にひっそりとたたずむナザレトの処女は、教会と一人ひとりのキリスト信者の心の中にもおいでになるのです。最近発表された「カトリック教会のカテキズム」は断言します。祝された聖母は「御父の御旨と御子の贖いのわざ、聖霊のあらゆる靈感に對して全面的に同意することによって、教会の信仰と愛の模範である。従ってマリアは教会の卓越した、全くユニークな成員であり、自身が模範的存在、教会の模範である。」(No.96)

マリアは母親です。キリストの御母、私たちの母です。その母と

セイドーの教理出版物がカセットになっています。各巻定価一、二〇〇円、送料三〇〇円です。お申し込み・お問い合わせは精道教育促進協会までどうぞ。

しての役割は、「満ちあふれるキリストの功績から流れ出て、キリストの仲介に基づき、その仲介に全く依存し、その仲介から一切の力を汲み取ります。」(教会憲章、60番) 信者の目に映る聖母の役目は「恩寵の世界においてわれわれにとつて母」(同61番)であること、またそれゆえに「教会において、弁護者、扶助者、救援者、仲介者の称号をもって呼び求められています。」(同62番) 主が聖母に委ねられた摂理的な役割がここにあります。要約すれば次の表現がびつたりでしょう。「マリアを通してイエズスへ。」

三十年前に開幕した第二バチカン公會議は信者たちに勧めました。「神の母および人々の母に對して絶えず嘆願を捧げ、教会の発端を祈りをもつて助けたマリアが、すべての聖人と天使の上へ上げられた天において、今もなお、全ての聖人の交わりの中に子のもとで取り次ぎを続けるよう、それによって諸国民の全家族が、キリスト信者の名をいただく者も救い主をまだ知らない者も全てが、平和と一致のうちに一つの神の民として幸いに集められて、至聖にして不可分の三位一体の栄光となるよう祈らなければならぬ。」(教会憲章、69番) 皆さん、このような深い霊的豊かさから、マリアへの愛と使徒職への献身が生れます。キリスト信者としての旅路を導く確かな星として、常に聖母を仰ぎ見てください。

人類の未来、教会の希望である若者の皆さん。善と平和の福音を国のすみずみまでもたらしてください。(…)皆さんの使命はある種の霊的な連帯感を持ち、真理に仕えることです。それにはキリストのメッセージを完全な姿で証明する、確かな証人となる必要があります。皆さんの前に立っているのは信仰深い処女、福音宣教の明星、母にして模範であるマリアです。いつもマリアを仰ぎ見てください。今、そうしているように。母としての取次に信頼しつつ、新たな福音宣教という仕事に、積極的な貢献をすることができましよう。教会共同体において、キリスト教生活の純粋なパルティとなり、真に一致することができるでしよう。

信者として、福音の使徒としての使命を帯びた皆さんに、付き添ってくださいますように。私たち自身のため、全人類のため、また人生の重荷と逆境にひしがれる人々のために祈ります。クリスマス喜びのうちに、謹んで祈ります。確信に満ち、首尾一貫した信仰の情を洗礼を受けた全ての人の心にかき立て、保たせてくださいましように。

# 託身の秘義を黙想しよう



★ 私たちは、いよいよクリスマスへの祝いを迎えます。日ごとにますます熱っぽく、はげしくクリスマススのノベナ(九日間の折り)は私たちが駆り立てています。そこまで来ている祝祭に備えて祈りと善行に励むよう、信仰の光に照らされて、いま新たに体験

しつつある託身の秘義の深遠さと意味深さを黙想するよう、招いているのです。この時期、私たちの祈りと考察を特徴づけるのは第一交唱と呼ばれる一連のクリスマススの答唱詩篇です。そこには来たるべき救い主の到来が、さまざまな角度から描

私たちが祝う救い主の誕生、ベトレヘムでの降誕の中に、キリスト信者の共同体は「至高の知恵」「民の導き手」「エッセの木の花」「ダビドの鍵」「輝く夜明け」「諸国民の王」そして「エンマヌエル」を見つめています。「エンマヌエル、神は私たちと

共にまします、諸国民の希望、万民の救い主、来て、私たちを解放してください。主なる神よ。」エンマヌエル! クリスマス前夜である今日、典礼はこの名をもってメシア(救い主)に呼びかけます。それはいわば、これまでの呼びかけ全てを総括する祈りです。処女から生れた子は、預言的な名「エンマヌエル」すなわち「神は私たちと共にまします」をいただいています。この名はイザヤの口を借りて、七百年前になされた預言を思い起させます。メシアの誕生と共に、神は救い主がそ

# 説教・講話・書簡等の抄記

「祈り方」「神の現存」(F・ルナ著、新田壮一郎訳) 「聖性を目指して」「マリアを通してイエズスへ」(J・エスクリバー著) 各60分カセット一巻

の民の間に完全な姿で、確かにとどまられることを約束されました。これは時と場所を問わず全ての人間がまず必要としていることに対する、神からの答えです。

★ 今日、私たちは増大する喪失間とむなしさの時代に生きています。考えてみれば、それは「神の感覚」が弱まった結果なのです。世俗化したこの世界では、多くの人が、人生を決定する選択の時にこの不可欠の感覚を失っています。まさにこういう状態だからこそ、クリスマスは喜ばしいメッセージが特別な重要性を帯びるのです。現代の人々、特に歴史の真の主との出会いを持ってな

いでいる人、日々の氣遣いに没頭し切っている人にとって、年ごとに新たに祝われるクリスマスは「私たちと共におられる神」の訪れを告げる「良い知らせ」です。御独り子の託身(受肉)を通して、限らない愛のうちに神ご自身が人間の努力によってはかなわぬことを成し遂げてくださいます。この聖なる夜、愛が憎しみに、生命が死に打ち勝つことが宣言されます。人類はもう独りぼっちではありません。人々と神との交わりをさえぎっていた越えがたい壁が永久に打ち倒されたのですから。ペトレヘムの洞窟で、天と地が触れ合い、無限なるものがこの世に入り込み、神の賜が永遠の戸を人類のために押し開けてくれま

した。神が共におられるなら、どんなにひどい苦痛も苦悩も分裂も、克服され、永久に打ち破られます。託身したみことばエンマヌエル、「共におられる神」は全てのはかない被造物の希望、全ての歴史の意味、全人類の最終目的地です。洞窟で羊飼いたちの礼拝を受ける神なる幼子は、慈悲深い天の御父からの最高の贈り物です。あらゆる時代の人々が近づけるよう、ご自身が私たちのようなものになることを辞さず、罪以外あらゆる点で被造物としての条件をお取りになりました。

★ 今日の答唱詩篇は、祈りの言葉で終わっています。「私

たちを解き放ちに来てください。主なる神よ。」クリスマスは秘義において、賛嘆のうちに私たちは人となられた永遠のみことば、私たちと共におられる驚くべき存在を称えます。その力強い恩寵の助けによって悲しみと苦しみを埋め、喜びと平和への道を照らし、連帯感に満ちたより良い世界を築くための努力を守ってくださいますから。

★ 兄弟姉妹の皆さん、完全に開かれた心で、クリスマスは救いの出来事を迎えてください。貧しい飼葉桶の中に、託身という偉大な出来事を見つめてください。託身は私たちの生き方を変える力をもって存在の深みまで貫

## マリアは尋ね、理解する

### 無原罪の御宿りの祝日に

1 「主イエズス・キリストの父である神をたたえよう。」(エフェソ1:3)

今日、教会は「全ての霊的祝福」に対し、神に感謝を捧げます。全人類がキリストによって、この祝福を受けることができます。

とりわけ教会は、ナザレトのマリアの無原罪の御宿りに感謝します。懐胎された最初の瞬間から「恩寵に満ちて」いたマリアは、

いかなる点でも原罪に触れてはいませんでした。聖なる三位一体に感謝いたしましょう。救いの永遠の計画において、マリアは「新しいエバ」、生きるもの全ての母、そしてキリストによって神の御目に清く汚れない者となった全ての人々の母となったからです。

マリアは生きるものの中で第一の人です。世の贖い主の母に選ばれたナザレトの処女は、母となることで贖いの実りを母の胎内に

2 今日、教会は再び立ち止って、ルカの伝えるお告げの場面を黙想します。託身されたみことば、御父と同等である方の秘義が、お告げの中で示されています。聖霊の力によって、神の永遠の御子は人の子となり、マリアという処女に宿り、お生れになりました。典礼ではルカのこのくだりがしばしば読まれるので、誰もがほとんど暗記しているほどです。それでもなお、啓示のさらに深い内容がまた新しい形で示されるのです。

処女マリアは耳を傾け、全身全霊をあげて聴き入ります。「恩寵に満ちた」マリアには、深く悟り、神のお告げの言葉を従順に受

マリアは謙遜のゆえに尋ねます。自分が至高の御方の計り知れない権威の前にしていることに突然気づいたのです。そこで、神の御旨を完全に知るため、天使を通じて話し掛けられた神の言葉を自分なりに理解するため、問いを發したのです。

マリアは従順です。「私は主のはしためです。あなたのみ言葉の通りになりますように。」(ルカ

3 「神は祝されよ。」父と子と聖霊の永遠の計画の中でみことばの母として選ばれた方、マリア。聖霊降臨の日に教会の母として示された方、マリア。(使徒行録1:14参照) 全教会の努力の実りとして、これをお受けください。教理省のためゆめ、惜しみない指導のもとにすこぶる価値のある仕事に携わった人たちがみなここに、御身の足元におり

1:38) 「幸せなこと、信じた方は。」(同1:45) 信仰の従順によって、隠れ、世に知られぬナザレトの処女は救いの計画をそっくり受け入れます。こうして同じ信仰の旅路を歩む全ての人々、キリストにおいて御父の養子となつた人々の先頭に立つのです。

# 不変の教え

ます。私たちはそろって「カトリック教会のカテキズム」をお捧げします。これは啓示されたみことばからの人間への贈り物であり、司教方と神学者たちの努力の賜です。私たちはこれを見ることが御母に、全ての被造物の長子の御母の手に委ねます。

マリアよ、御身の信仰の従順によつて肉となられたイエズスは、多くの兄弟の長子となられ(ローマ8・29)ました。

祝された処女よ、最初のアダムから受け継がれてきた罪の傷はいまだ世にあり、人々は神のみ顔を逃れ、神を仰ぎ見ようとさえし

## 二降誕

騒がしかった一年を振り返り、いろいろと矛盾の多い人間の歴史のうちにも、神は常に現存し給うことを思いだそう。

人間を創造するにあたり、知性と自由をお与えになった神は、歴史の中に壮大な峰々と悲惨な深淵とがちりばめられていたよう望まれた。しかし、人間を見捨てたわけではない。クリスマスは私たちが全能の神に愛されていることを保証してくれる。

## 神に向かつて

私たちが神の子であるという事実は、私たちが神に向かつて「昇る」ための決定的な理由となつて

せんが、私たちは託身されたみことば、人の子の福音、御身の愛する御子への道が開かれるよう祈りたいと思います。

進歩を遂げながらも困難に悩まされる現代人のため、全ての文明と言語、あらゆる文化と人種の人々のため、マリアよ、神のみことばに注意深く耳を傾け、真に心を開くお恵みを乞い求めます。

人類の母よ、全ての人が感謝をもつて御父からのお恵みに、御子によつて皆を子として迎えようとする寛大な招きに応えることができましますように。希望の母よ、私たちにも信仰の従順を教えてください。

います。息子や娘である私たちが、御父の家を探さずいられるでしょうか。

詩篇は人間を地上に降る存在としてではなく、神に向かつて「昇る」存在として示しています。

# 黙想のしおり

地は主のものです。そして主は地を人間のために、主に向かつて昇つていく場所としてお創りになったのです。

## イエズス

イエズスは教えられる。病人を治される。人々の真只中に、全て

い。これこそは唯一まことの救いの保障ですから。

信実なる処女よ、この地上で信仰の旅を続ける信者たちの先頭に立つ御身のご保護によつて、キリストを受け入れ、従わんとする人が歩み続けることのできますように。キリストは「今あり、かつてあり、後に来られる者」(黙示録1・8)、「道であり、真理であり、生命である」(ヨハネ14・6)方です。

慈悲深く、愛すべき、優しい御母、神の母マリアよ、私たちをお助けください。アーメン。

(一九九二・十二・八)

の人のそばに、一人ひとりのわたらにおられる。イエズスは「他の人々のために存在する人」です。

一人ひとり皆のために、特に貧しい人、苦しんでいる人、捜し求める人のために存在する人です。

## 贈り物

「私」の心を振り捨てれば、成しつつかある善に専念することが出来ます。利己心から逃れてください。あなたのしていることが他の人の助けとなり、贈り物の論理にかなうことを願うなら。

心を悩ます問題を神に打ち明けなさい。日々示される慈しみと、あなたを通して人々にお与えになる賜に対して大喜びで感謝の心を表してください。

## 倫理に関する回勅

# 「真理の輝き」

- 自由になるには、人間についての真理を尊重しなければなりません。
- 神法のおきては、越えてはならない最低線ではなく、完全になるための道です。
- 人格の尊厳と良心に対する尊敬とは、近代の文化が獲得した肯定的な要素です。しかし、このような進歩も、倫理的判断とは根本的に主観的なものだと考えることを、正当化する理由にはなりません。
- 人間は自由意志を持っていません。
- しかし、善であるか悪であるかを決めるのは神のみです。
- 倫理規範は人間に共通な本性から導きだされるものですから、そこには常に全ての人を義務づけるおきてが含まれています。
- 人間の本性は種々異なる文化を越えているのです。
- 良心は間違ふことがあります。
- 倫理的な善に関する主観的な誤りと客観的な真理とを混同することは絶対にはできません。
- 倫理問題に関する教会の判断が良心の自由を損なうことはありません。なぜなら、この自由は、真理を操作する自由ではなく、真理のうちにおいてこそ得られる自由だからです。
- 生活を神に向けるという根本的選択は、重要なことです。しかし神を明らかに拒むことがなくとも、重大な事柄において意識的に道徳律を破るなら、大罪となります。
- 行いそのものが悪であるなら、意向がよくても、あるいは特定の状況が行いの悪さの程度を軽減することがあるとしても、行いの悪さそのものを無くすることはできません。
- 倫理道徳の要求を薄めれば人の役に立つという考えは、お人好しとしか考えられません。本当は、人格の真の善、真正正銘の自由に対する愛でなければなりません。
- 民主主義と倫理的相対主義が手を握ると、人々が仲よく生活するための倫理的に確実な支えを奪ってしまいます。
- 教会の教理を教える役目を受け入れる倫理神学者は、教導職に同意を表明する点において、模範的でなければなりません。司教は、カトリックの教えを純粋なかたちで、また欠けることのない完全な状態で受けるといふ信者の権利が尊重されるように要求しなければなりません。(中心的な教えをいくつか抜き出してみました。)

「教皇様の声」ヨハネ・パウロ二世教皇の説教 書簡、講話等を解説なしにそのまま伝える月刊紙 毎月十日発行 定価 一部八十円 送料実費 一年予約九百円 送料六百円 二千部以上の一括購入なら送料不要

郵便振替 神戸 3-72393